

# 舗装路面で共同研究開始

## 救急患者の負担減らす性能検証

大成ロテック  
北海道科学大学

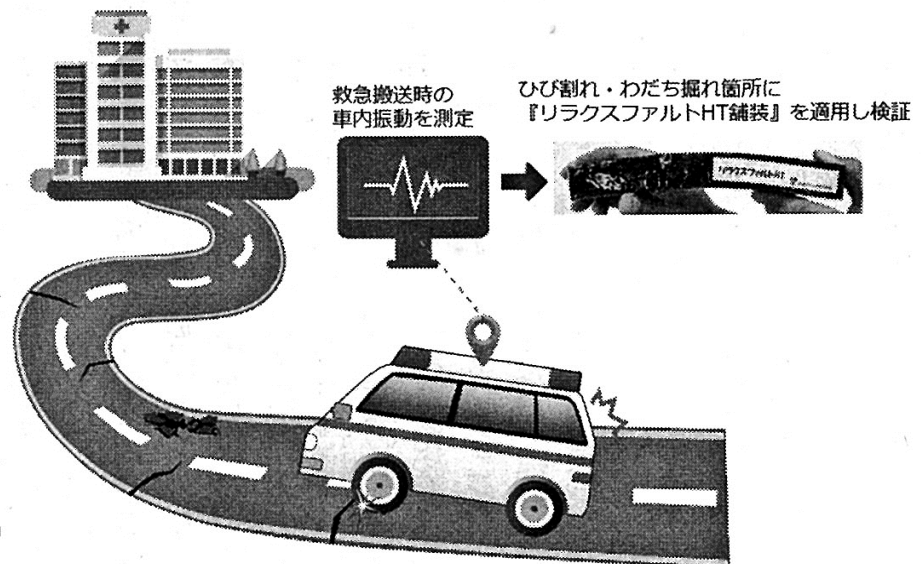
大成ロテックと亀山修一北海道科学大学教授は共同で、救急車による緊急搬送時に車両の振動が患者に与える負荷を最小限に抑えるべく、舗装路面が持つべき性能を明らかにするための共同研究を開始した。

北海道では、重篤な緊急患者に対応可能な遠方の3次医療病院まで1時間以上も救急車で搬送することは珍しくないという。特に、大動脈瘤破裂やくも膜下出血の患者の搬送では、患者にできるだけ振動を与えないように舗装路面の悪い箇所では減速することが多く、その分通常と比較し搬送時間が延びてしまうケース

もあつた。共同研究では、北海道開発局と中標津消防署の協力を得て、救急車に大成ロテックが保有するSTAMPERRIIを設置し、緊急搬送時の車内振動を測定し、ひび割れやわだち掘れ、平坦性などの舗装の路面性状との関係を目指

す。また、搬送時に患者へ負担をもたらす舗装路面の変状を抑制することが期待できる同社の特殊改

質アスファルト「リラックスファルトHT」を活用した試験舗装を構築し、効果を検証していく。



共同研究のイメージ図